



# 管理者ガイド

---

© 2002 Unify Corporation. All rights reserved. Sacramento California, USA

No part of this document may be reproduced, transmitted, transcribed, stored in a retrieval system, or translated into any language or computer language, in any form or by any means, electronic, mechanical, magnetic, optical, chemical, manual or otherwise without the prior written consent of Unify Corporation.

Unify Corporation makes no representations or warranties with respect to the contents of this document and specifically disclaims any implied warranties of merchantability or fitness for any particular purpose. Further, Unify Corporation reserves the right to revise this document and to make changes from time to time in its content without being obligated to notify any person of such revisions or changes.

The Software described in this document is furnished under a Software License Agreement. The Software may be used or copied only in accordance with the terms of the license agreement. It is against the law to copy the Software on tape, disk, or any other medium for any purpose other than that described in the license agreement.

The Unify Corporation Publications Department values and appreciates any comments you may have concerning our products or this document. Please address comments to:

Marketing Department  
Unify Corporation  
2101 Arena Blvd. Suite 100  
Sacramento, CA 95834-1922

(800) 468-6439  
(916) 928-6400  
FAX (916) 928-6406

UNIFY, ACCELL, VISION, DataServer, and the Unify Logo are registered trademarks of Unify Corporation. Unify NX<sup>J</sup> is a trademark of Unify Corporation. UNIX is a registered trademark of The Open Group in the United States and other countries. The X Window System is a product of the Massachusetts Institute of Technology. Motif, OSF, and OSF/Motif are trademarks of Open Software Foundation, Inc. SYBASE is a registered trademark, and SQL Server, DB\_Library, and Open Server are trademarks of Sybase, Inc. INFORMIX is a registered trademark of a subsidiary of IBM. INGRES is a trademark of Computer Associates International, Inc. ORACLE is a registered trademark of Oracle Corporation. Sun is a registered trademark, and SunView, Sun\_3, Sun\_4, X11/NeWS, SunOS, PC\_NFS, and Open Windows are trademarks of Sun Microsystems. All SPARC trademarks are trademarks or registered trademarks of SPARC International, Inc. SPARCstation is licensed exclusively to Sun Microsystems, Inc. Novell is a registered trademark of Novell, Inc. Macintosh is a trademark of Apple Computer, Inc. Microsoft, MS, and Windows are registered trademarks of Microsoft. All other products or services mentioned herein may be registered trademarks, trademarks, or service marks of their respective manufacturers, companies, or organizations.

# 目次

---

<b>1. NX<sup>J</sup> コントロールセンタについて</b>	<b>1</b>
NX <sup>J</sup> コントロールセンタとは? .....	1
Unify NX <sup>J</sup> 実行環境 .....	3
NX <sup>J</sup> コントロールセンタ 管理者 .....	4
NX <sup>J</sup> コントロールセンタのリソース .....	4
NX <sup>J</sup> コントロールセンタのセキュリティ .....	6
<b>2. NX<sup>J</sup> コントロールセンタでの作業開始</b>	<b>9</b>
NX <sup>J</sup> コントロールセンタへのアクセス .....	9
NX <sup>J</sup> コントロールセンタメニュービュー .....	10
NX <sup>J</sup> コントロールセンタ管理者の割り当て .....	13
<b>3. セキュリティ</b>	<b>16</b>
Access Control .....	16
Read Access Control と Write Access Control .....	17
NX <sup>J</sup> Control Center の Actions .....	18
Actions の Access Control をカスタマイズ .....	19
Resource の Access Control をカスタマイズ .....	21
<b>4. アプリケーションの配備と管理</b>	<b>22</b>
新規アプリケーションパッケージの配備 .....	23
アプリケーションの配備 .....	23
タスク 1 : アプリケーション パッケージのディレクトリ位置 .....	25
タスク 2 : アプリケーションパッケージの配備 .....	26
タスク 3 : アプリケーションのテスト .....	30
タスク 4 : アプリケーションが利用できることをユーザに通知 .....	30
配備されたアプリケーション情報の表示 .....	31
アプリケーションの再配備 .....	31

アプリケーションパッケージの削除.....	31
<b>5. メニュー管理</b> .....	<b>33</b>
新規メニューの作成.....	36
メニュー項目の追加と更新.....	40
メニューの削除.....	42
メニュープロパティの変更.....	43
メニューのアクセスコントロールを設定.....	43
メニューのローカライズ.....	45
<b>6. 通知管理</b> .....	<b>47</b>
通知の作成.....	49
通知の変更.....	51
通知の削除.....	52
<b>7. NX<sup>J</sup> Control Center のカスタマイズ</b> .....	<b>53</b>
Actions.....	53
Locales.....	55
<b>A. ccmanage ユーティリティ</b> .....	<b>57</b>
NX <sup>J</sup> コントロールセンタの配備.....	57
NX <sup>J</sup> コントロールセンタの更新.....	58
NX <sup>J</sup> コントロールセンタの削除.....	58
Unify NX <sup>J</sup> eWave Engine の場合.....	58
<b>B. ライセンス</b> .....	<b>59</b>
<b>C. IBM WebSphere 4.X Application Server に   配備する NX<sup>J</sup> アプリケーション</b> .....	<b>61</b>
WebSphere 4.X Application Server を使った配備.....	61
スタンドアロンアプリケーションへのアクセス.....	63

# NX<sup>J</sup> コントロールセンタについて

---

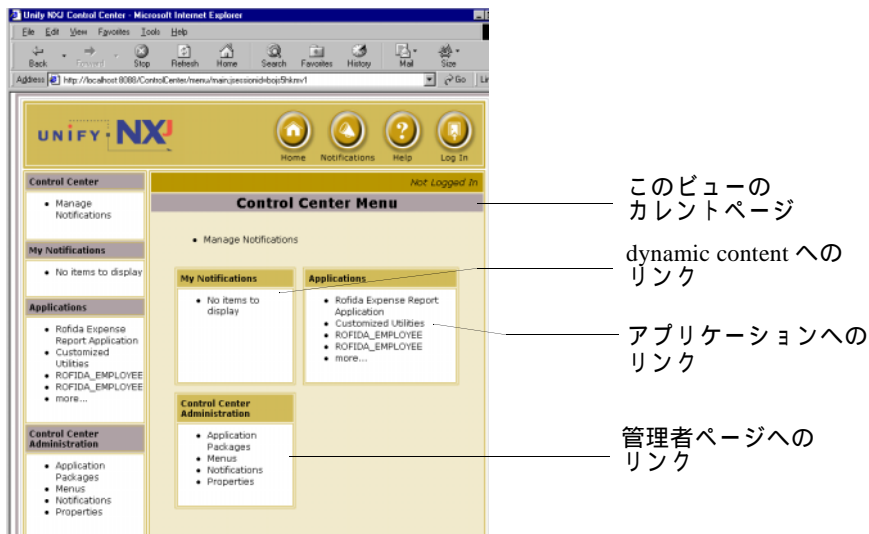
1

## NX<sup>J</sup> コントロールセンタとは？

NX<sup>J</sup> コントロールセンタは、専用の Web アプリケーションです。NX<sup>J</sup> コントロールセンタは、Unify NX<sup>J</sup> アプリケーションの実行環境を管理します。NX<sup>J</sup> コントロールセンタには、アプリケーションおよび関連リソースのメニュー システムとアクセスコントロールが用意されています。

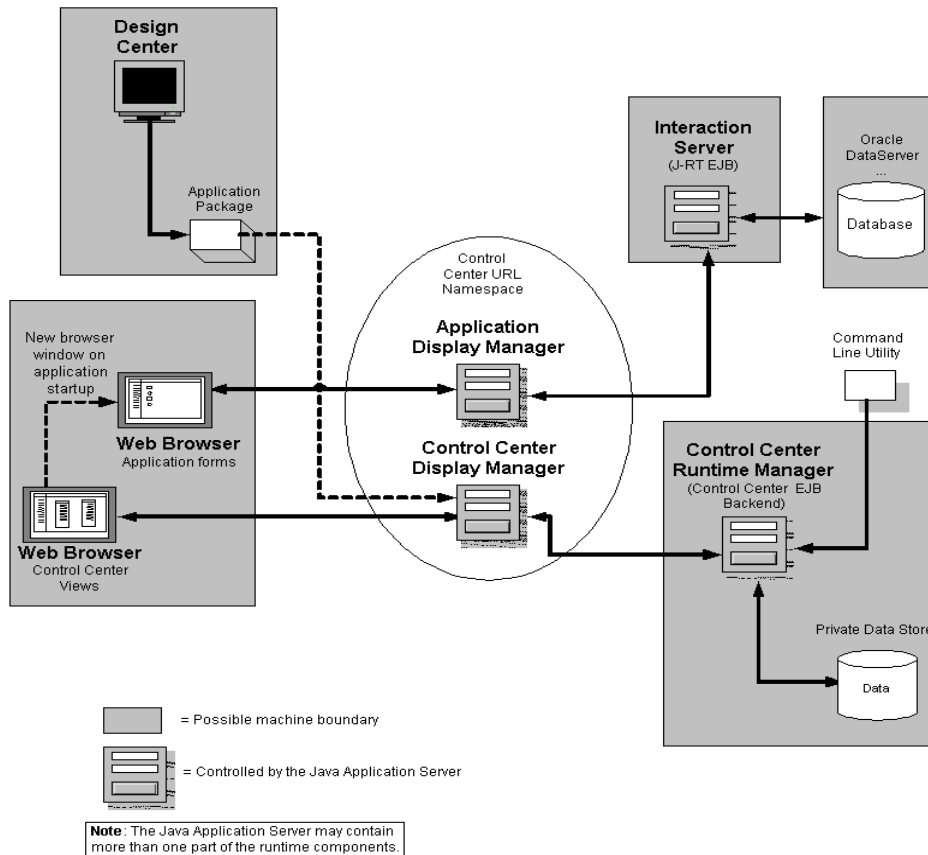
リソースは static content の場合と dynamic content の場合があります。例えば、開発者がアプリケーションに含めるように選択した PDF フォーマットのドキュメントや HTML フォーマットのヘルプ システムもあれば、必要に応じて作成されるレポートや通知もあります。これらのリソースはすべて NX<sup>J</sup> コントロールセンタの Web ページを経由してアクセスし、管理します。この Web ページを NX<sup>J</sup> コントロールセンタビューと呼びます。

以下の図は、一般的な NX<sup>J</sup> コントロールセンタビューです。



## Unify NX<sup>J</sup> 実行環境

NX<sup>J</sup> コントロールセンタ アプリケーションは、Unify NX<sup>J</sup> 実行環境で実行され、以下のようなコンポーネントがあります。



NX<sup>J</sup> コントロールセンタにアクセスできるようにするには、Java Application Server に配備します。他の Web アプリケーションと同じように、通常、NX<sup>J</sup> コントロールセンタのビューとリソースには、Web ブラウザでアクセスします。

ユーザがアプリケーションを起動すると Unify NX<sup>J</sup> インタラクションサーバによって実行、データベース アクセス、アプリケーションの表示とデータ入力が管理されます。NX<sup>J</sup> コントロールセンタでは、管理されません。

Unify NX<sup>J</sup> 実行環境では、以下のセクションで説明するように、NX<sup>J</sup> コントロールセンタ管理者が Unify NX<sup>J</sup> アプリケーションを配備します。

## NX<sup>J</sup> コントロールセンタ 管理者

NX<sup>J</sup> コントロールセンタ管理者は、ユーザがアクセスできるように Unify NX<sup>J</sup> アプリケーションを配備し、NX<sup>J</sup> コントロールセンタのアプリケーションや他のリソースを管理する、特別なタイプの NX<sup>J</sup> コントロールセンタ ユーザです。

Unify NX<sup>J</sup> アプリケーションは、配備後すぐに使用できるようにパッケージ化されています。つまり、NX<sup>J</sup> コントロールセンタセキュリティシステムに適合するセキュリティ要件と、アプリケーションのエントリポイントを既存のメニューへのメニュー項目として追加する手順が含まれています。

NX<sup>J</sup> コントロールセンタ管理者は、セキュリティシステムやメニュー配置を自分が把握しているアプリケーションのユーザ情報に合わせて変更する場合もあります。

NX<sup>J</sup> コントロールセンタ管理者は、NX<sup>J</sup> コントロールセンタリソースに関する情報をユーザに発行するために通知を使用します。通知とは、それぞれのユーザのビューに表示されるテキストメッセージです。

NX<sup>J</sup> コントロールセンタ管理者は、リソースの管理といったタスクを実行するために NX<sup>J</sup> コントロールセンタの管理者ページを使用します。

## NX<sup>J</sup> コントロールセンタのリソース

リソースとは、ユーザが NX<sup>J</sup> コントロールセンタからアクセスするものです。具体的な内容は、以下のとおりです。

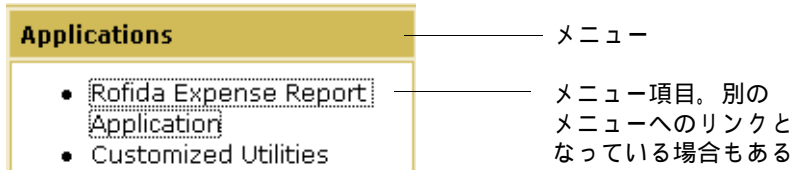
- アプリケーションのエントリポイント

アプリケーションのエントリポイントとは、アプリケーション パッケージのエントリポイントとして定義されたフォームであり static content ファイルです。



- メニュー

メニューはメニュー項目のまとまりを提供するために使用され、リソースにアクセスするためのものです。NX<sup>J</sup> コントロールセンタのリソースはすべて、メニュー項目からアクセスすることも、URL から直接アクセスすることもできます。

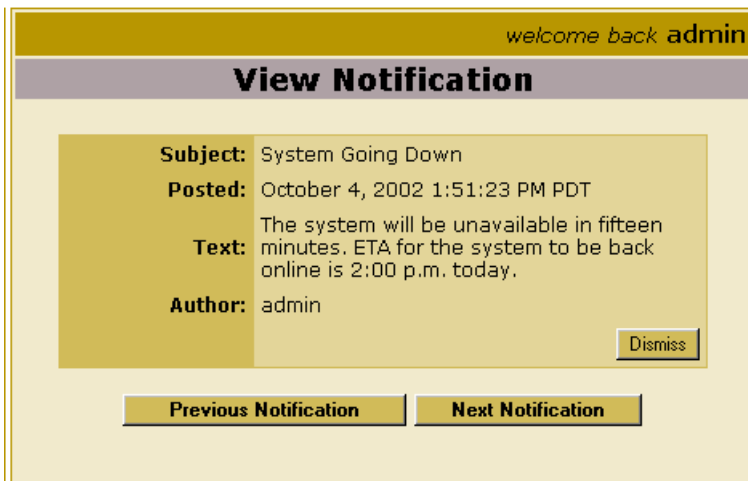


アプリケーションパッケージには、パッケージのエントリポイントをメニューに追加する手順が含まれています。メニューがNX<sup>J</sup> コントロールセンタにない場合は作成されます。

- Dynamic content

動的に発行されるコンテンツの1つに、通知があります。通知とは、NX<sup>J</sup> コントロールセンタ管理者や Unify NX<sup>J</sup> アプリケーションが作成する情報メッセージであり、特定のユーザやユーザグループが宛先となっています。例えば、アプリケーションを再配備する必要がある場合、NX<sup>J</sup> コントロールセンタ管理者はユーザに一定期間アプリケーションが使用できないことを通知します。

通知のサンプルを以下の図に示します。



- Static content

static content ファイルは、指定されたビューを使えば実行環境で表示できます。例えば、PDF ファイルを表示するには Adobe Acrobat Reader が必要です。static content ファイルは、アプリケーションパッケージに含めること、または NX<sup>J</sup> コントロールセンタ管理者が追加することもできます。

## NX<sup>J</sup> コントロールセンタのセキュリティ

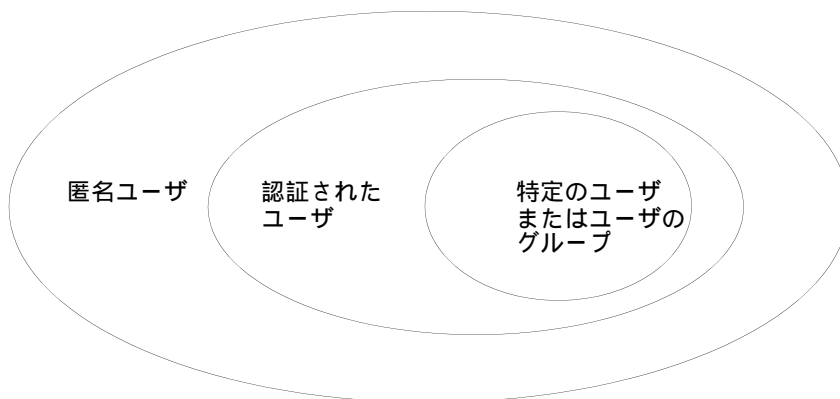
このセクションでは、NX<sup>J</sup> コントロールセンタのセキュリティを理解する場合に重要となる基本概念を説明します。セキュリティ システム実装の詳細については、[16 ページの「セキュリティ」](#)を参照してください。

NX<sup>J</sup> コントロールセンタは、J2EE 環境のセキュリティ アーキテクチャを使用しています。これは、Java アプリケーションサーバのユーザ ID とグループ ID が NX<sup>J</sup> コントロールセンタで識別できることを意味します。このような関係があるため、NX<sup>J</sup> コントロールセンタは認証されたユーザを判断できます。

管理者が NXJ コントロールセンタで設定するセキュリティシステムは、アクセスコントロールという概念に基づいています。アクセスコントロールは、ユーザのカテゴリと保護対象のリソースという2つのコンポーネントを組み合わせたものであると考えればいいでしょう。また、アクセスコントロールには、アプリケーションパッケージの配備のように、ユーザが NXJ コントロールセンタで実行できるアクションを割り当てます。

その場合、アクセスコントロールは、NXJ コントロールセンタのユーザのカテゴリに基づいています。匿名ユーザとは、ログインせずに NXJ コントロールセンタを使用するユーザです。認証されたユーザとは、正しくログインして NXJ コントロールセンタビューを使用しているユーザです（認証を行うのは Java アプリケーションサーバのセキュリティシステムで、NXJ コントロールセンタが認証するわけではありません）。アクセスコントロールで特定のユーザやグループを指定することもできます。これらのユーザも Java アプリケーションサーバセキュリティシステムによって資格が確認されるので、認証されたユーザです。

以下の図にユーザの関係を示します。



アプリケーションパッケージのアクセスコントロールは、パッケージが作成された時点で定義されます。パッケージを作成する前に、アプリケーション開発者はエントリポイントにアクセスして、データベースが操作できるユーザのカテゴリを指定します。

アプリケーションパッケージのセキュリティに関する詳細については、『Unify NXJ 開発者ガイド』を参照してください。

---

Unify NXJ 新規インストール後のデフォルトでは、NXJ コントロールセンタのセキュリティには制限がなく、匿名ユーザは任意のリソースにアクセスして任意のアクションを実行できます。NXJ コントロールセンタ管理者として行動できるユーザを決定してNXJ コントロールセンタを更新し、できるだけ早くデフォルトのセキュリティ設定を変更してください。詳細については、[13 ページの「NXJ コントロールセンタ管理者の割り当て」](#)を参照してください。

# NX<sup>J</sup> コントロールセンタでの 作業開始

2

この章では、NX<sup>J</sup> コントロールセンタの設定方法と、実運用環境で使用方法を説明します。このプロセスの基本ステップは、以下とおりです。

1. NX<sup>J</sup> コントロールセンタにアクセスする。
2. NX<sup>J</sup> コントロールセンタ初期ビューの主要領域を理解する。
3. NX<sup>J</sup> コントロールセンタ 管理者になるユーザを指定する。

## NX<sup>J</sup> コントロールセンタへのアクセス

デフォルトでは、NX<sup>J</sup> コントロールセンタはインストール時に Java アプリケーションサーバに配備されます。配備された NX<sup>J</sup> コントロールセンタには、以下の方法でアクセスできます。

Windows では、**スタート > プログラム > Unify NX<sup>J</sup> > コントロールセンタ > <コントロールセンタ名>** を選択します。<コントロールセンタ名> は、アクセスしようとする NX<sup>J</sup> コントロールセンタです。デフォルトの NX<sup>J</sup> コントロールセンタは ControlCenter です。NX<sup>J</sup> コントロールセンタが配備されていない場合は、NX<sup>J</sup> コントロールセンタのサブメニューには、何も表示されません。ccmanage ユーティリティを使って、NX<sup>J</sup> コントロールセンタを配備する必要があります。このユーティリティの詳しい使い方については、[57 ページの付録 A 「ccmanage ユーティリティ」](#) を参照してください。

UNIX では、コマンドラインプロンプトで **controlcenter** と入力します。

コマンドを入力すると、Unify NX<sup>J</sup> で認証された Web ブラウザの 1 つを使って、Web ブラウザ セッションが始まります (Unify NX<sup>J</sup> でホスト上のブラウザの位置を指定することが必要です)。NX<sup>J</sup> コントロールセンタ ビューが Web ブラウザに表示されます。

---

または、任意のホストの Web ブラウザから、配備された NX<sup>J</sup> コントロールセンタにアクセスすることもできます。NX<sup>J</sup> コントロールセンタの URL は、以下のとおりです。

**http://machine:port/ControlCenterName**

ここで

*machine* は、NX<sup>J</sup> コントロールセンタが配備されたホスト名を表します。

*port* は Java アプリケーションサーバの http ポート番号で、NX<sup>J</sup> コントロールセンタの配備時に指定されます。デフォルトは 8088 です。

*ControlCenterName* は、NX<sup>J</sup> コントロールセンタの名称で、NX<sup>J</sup> コントロールセンタの配備時に指定されます。デフォルトは **ControlCenter** です。

インストール時以外に NX<sup>J</sup> コントロールセンタを配備する場合は、**ccmanage** ユーティリティを使用します。このユーティリティの詳細な使い方については、[57 ページの付録 A 「ccmanage ユーティリティ」](#)を参照してください。

NX<sup>J</sup> コントロールセンタビューを終了する場合は、Web ブラウザのウィンドウを閉じます。(NX<sup>J</sup> コントロールセンタアプリケーションは、アクティブビューセッションの数には影響されません。) NX<sup>J</sup> コントロールセンタアプリケーションは、個別に管理されています。付録 A を参照してください。

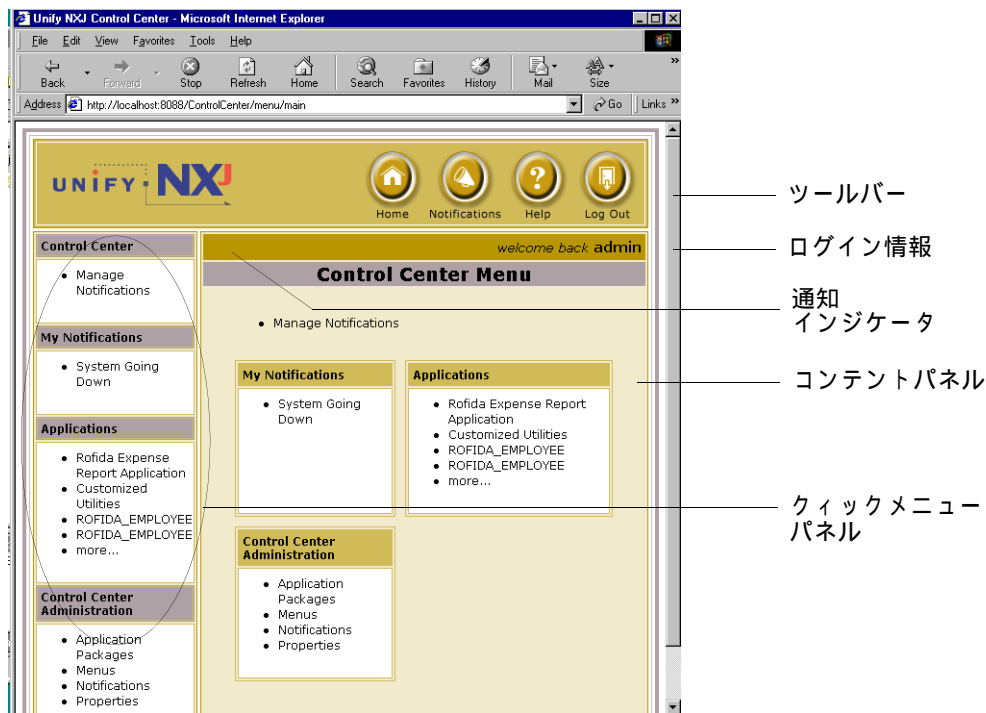
---

**注** – NX<sup>J</sup> コントロールセンタで使用できる Web ブラウザの最新情報は、Unify NX<sup>J</sup> ReadMe を参照してください。

---

## NX<sup>J</sup> コントロールセンタメニュービュー

NX<sup>J</sup> コントロールセンタを使って実行環境を管理すると、ユーザの要求に合うようにカスタマイズします。NX<sup>J</sup> コントロールセンタの初期ビュー（カスタマイズやアクセスコントロールが追加される前のビュー）は、次のページに示すような NX<sup>J</sup> コントロールセンタメニューです。



コンテンツパネルは、NX<sup>J</sup> コントロールセンタの主要作業領域です。デフォルトのコンテンツパネルには、NX<sup>J</sup> コントロールセンタの“メイン”メニューがあり、以下の項目があります。

- Manage Notifications
- My Notifications (サブメニュー)
- Applications (サブメニュー)
- Control Center Administration (サブメニュー)

クイックメニューパネルは、ユーザが指定した共通メニューを表示するためのパネルです。ユーザは、クイックメニューパネルに表示されている以外の項目にもアクセスできます。

ユーザがクイックメニューパネルで選択した項目が、コンテンツパネルに表示されます。クイックメニューパネルの項目を選択すると、例えば Unify NX<sup>J</sup> アプリケーションのインタラクティブサーバウィンドウのような別のウィンドウが開くことがあります。コンテンツパネルに表示される内容と変わりはありません。

また、クイックメニューには、専用の文脈対応メニューが表示されます。このメニューは特定の管理者ページで使用します。

ツールバーには、以下のボタンがあります。

表 2-1 NX<sup>J</sup> コントロールセンタ ツールバーのボタン

ボタン	説明
 Home	Home ボタンをクリックすると、カレントユーザの HOME リソースが表示されます。デフォルトの HOME リソースは、 <a href="#">10 ページの「NX<sup>J</sup> コントロールセンタメニュービュー」</a> に示されている NX <sup>J</sup> コントロールセンタの“メイン”メニューです。
 Notifications	Notification ボタンをクリックすると、My Notifications のページが表示されます。このボタンは、クイックメニューパネルから My Notifications menu を選択した場合と同じ結果になります。
 Help	Help ボタンをクリックすると、カレントページのヘルプがコンテンツパネル内に表示されます。
 Log In	Log In ボタンをクリックすると、NX <sup>J</sup> コントロールセンタにログインできるログインページが表示されます。NX <sup>J</sup> コントロールセンタは、ログイン資格を確認するために Java アプリケーションサーバに問い合わせます。正しくログインすると、 <b>認証されたユーザ</b> として識別されます。
 Log Out	Log Out ボタンをクリックすると、NX <sup>J</sup> コントロールセンタからログアウトします。つまり、認証されたユーザから認証されていないユーザへと変わります。NX <sup>J</sup> コントロールセンタ ビューは終了しません。

ログイン情報領域には、ログイン状況が表示されます。NX<sup>J</sup> コントロールセンタに正しくログインすると、ログイン情報領域にログイン名が表示されます。それ以外の場合は、“ログインしていません”というメッセージが表示されます。

通知インジケータには、未読の通知数が表示されます。このインジケータは、認証されたユーザに対してのみ表示されます。



NX<sup>J</sup> コントロールセンタ リソースで有効なアクセスコントロールによっては、ログインが必要な場合と必要でない場合があります。デフォルトでは、新規インストール後のすべてのユーザがすべてのリソースを表示できるので、ログインの必要はありません。

## NX<sup>J</sup> コントロールセンタ管理者の割り当て

NX<sup>J</sup> コントロールセンタのリソースを保護するために、ユーザアクセスを制限する必要があります。Unify NX<sup>J</sup> は、どのNX<sup>J</sup> コントロールセンタのユーザが管理者のロールで動作できるかを指定できるように、コントロールセンタ管理者ロールを提供しています。NX<sup>J</sup> コントロールセンタ管理者は、どのアクションも実行できる点に注意してください。

インストール直後のNX<sup>J</sup> コントロールセンタでは、NX<sup>J</sup> コントロールセンタにアクセスするユーザをすべてNX<sup>J</sup> コントロールセンタ 管理者として扱うように設定されています。つまり、認証されているかどうかにかかわらず、すべてのユーザがどのようなアクションでも実行できます。(認証されたユーザとは、Java アプリケーションサーバに資格が識別されているユーザです。)

NX<sup>J</sup> コントロールセンタ管理者になるユーザ (またはユーザのグループ) のリストを定義したら、NX<sup>J</sup> コントロールセンタ管理者を必要とするリソースやアクションを指定します。

NX<sup>J</sup> コントロールセンタ管理者として動作できるユーザを指定するステップは、以下のとおりです。このステップは、自分を管理者に指定する場合にもあてはまります。

1. NX<sup>J</sup> コントロールセンタ管理者になるユーザのユーザ名やグループ名を取得します。

ユーザおよびグループの名称は、Java アプリケーションサーバが使用しているセキュリティプロバイダによって定義されています。このため、NX<sup>J</sup> コントロールセンタで指定する名称やグループは、これらの名称と完全に一致している必要があります。

2. NX<sup>J</sup> コントロールセンタで、**Control Center Administraton > Properties > Administrators** を選択します。

Control Center Properties - Administrators のページが表示されます。



3. “Administrators:” ドロップダウンリストで、NX<sup>J</sup> コントロールセンタ管理者のロールで動作させたいユーザのカテゴリを選択します。

All users

認証されているかどうかにかかわらず、NX<sup>J</sup> コントロールセンタのどのユーザでも管理者になります。これは、デフォルトです。

Only authenticated users

正しくログインしたユーザだけが管理者になります。正しくログインするには、Java アプリケーションサーバ が使用しているセキュリティプロバイダにユーザの資格が識別される必要があります。

Specified users and/or groups

特定のユーザやグループだけが管理者になります。

複数のユーザ名やグループ名がある場合は、カンマで区切ります。

---

**警告** – 自分自身を NX<sup>J</sup> コントロールセンタ管理者にしたい場合は、必ず自分のユーザ名または自分が所属するグループ名を含めてください。それ以外の場合は、変更を適用した後は NX<sup>J</sup> コントロールセンタへのアクセスが拒否されてしまいます。

---

- 
4. **Submit** ボタンをクリックします。
  5. ログインページが表示されたら、このページを使ってNX<sup>J</sup> コントロールセンタにログインします。

ログインページは、NX<sup>J</sup> コントロールセンタにログインしておらず、カレントビューが認証を要求している場合に表示されます。

NX<sup>J</sup> コントロールセンタ管理者には、NX<sup>J</sup> コントロールセンタリソースのセキュリティを設定して管理する責任があります。

NX<sup>J</sup> コントロールセンタは Web ブラウザからアクセスするため、データソースは通常のビジネスアプリケーション内にある場合よりも外部にさらされています。このため、アプリケーションが必要とするデータ保護のレベルと同じセキュリティを設定することは、非常に危険です。

NX<sup>J</sup> コントロールセンタのセキュリティモデルは単純です。各リソースと、NX<sup>J</sup> コントロールセンタでユーザが実行できる各 *Action* に *Access Control* があります。アクセスコントロールの条件に合うユーザだけが、リソースにアクセスしたりアクションを実行したりできます。さらに、アクセスコントロールの条件に合わないユーザには、アクセスコントロールの条件があるリソースとアクションのメニュー項目は表示されません。ただし、ユーザが匿名ユーザであり、リソースが “Allow Anonymous Users” *Access Control* を指定している場合は、表示されます。

## Access Control

アクセスコントロールは、以下の NX<sup>J</sup> コントロールセンタユーザのカテゴリに基づいています。

- ログインせずに NX<sup>J</sup> コントロールセンタビューを使用しているユーザは、*匿名ユーザ*または認証されていないユーザとして識別されます。  
リソースの一部、または全部が全ユーザに対応する場合、ユーザは NX<sup>J</sup> コントロールセンタにログインする必要はありません。
- NX<sup>J</sup> コントロールセンタにログインしたユーザは、*認証されたユーザ*として識別されます。

ユーザ名とパスワードが NX<sup>J</sup> コントロールセンタに受け付けられると、ユーザは認証され、NX<sup>J</sup> コントロールセンタが配備された Java アプリケーションサーバのセキュリティシステムに識別されます。

NX<sup>J</sup> コントロールセンタのセッション中、ユーザはいつでも匿名ユーザから認証されたユーザに変わることができます。また、認証されたユーザだけが利用できるリソースに匿名ユーザがアクセスしようとする、NX<sup>J</sup> コントロールセンタはログインを要求します。

NX<sup>J</sup> コントロールセンタで、以下の3つの Access Control タイプのうちどれか1つを指定して、アクセスコントロールを割り当てます。

表 3-1 Access Control タイプ

Access Control タイプ	説明
All users	任意のユーザのアクセスを認めます。この場合、匿名ユーザでも認証されたユーザでもかまいません。つまり認証は不要であり、同時にいかなる認証も許可されません。
Only Authenticated Users	任意の認証されたユーザのアクセスを認めます。
Specified users and/or groups	以下のいずれかのリスト、または両方のリストのユーザのアクセスだけを認めます。  Users の ユーザリストに含まれているユーザのアクセスを認めます。  Groups の グループのリストに含まれるグループのメンバーである場合、ユーザのアクセスを認めます。

認証されたユーザと同じように、Users と Groups は Java アプリケーションサーバが提供するセキュリティによって定義されます。グループとは、“employees” のように指定されたユーザのまとまりです。Java アプリケーションサーバで許可されていれば、Groups には他のグループを含めることができます (eWave エンジンでは、サポートされていません)。

## Read Access Control と Write Access Control

すでに説明したとおり、それぞれのリソースには2つのアクセスコントロールがあり、効力を持っています。1つは Read Access、もう1つは Write Access です。

---

## Read Access

このリソースを表示するために、必要な Access Control を指定します。これは、このリソースを参照するメニュー項目が、ユーザのメニューで許可されていることを表します。例えば、あるレポートの Read アクセスに All users タイプのアクセスコントロールがあれば、NX<sup>J</sup> コントロールセンタのすべてのユーザがこのレポートを表示できます。

## Write Access

リソースの 1 つ、または複数の特性を表示したり変更したりするために必要な Access Control を指定します。以下のように、アクセスコントロールのタイプによって異なります。

- アプリケーションのエントリポイントの場合、ユーザはメニュー項目のテキストを変更できます。

アプリケーションリソースを削除したり、開発者が定義した Access Control プロパティを変更したりすることはできません。

- メニューの場合、ユーザはメニュー項目を追加 / 削除できます。ユーザにメニュー（アイコン）を追加 / 削除するパーミッションがあれば、メニューそのものを削除することもできます。

---

**注** – NX<sup>J</sup> コントロールセンタ管理者には、すべてのアクションを実行する権限が暗黙的に与えられていますが、アクションを完了するには Write アクセスが必要です。

---

## NX<sup>J</sup> Control Center の Actions

Actions とは、NX<sup>J</sup> コントロールセンタで実行できるタスクであり、Access Control を割り当てることができます。以下のようなアクションがあります。

- アプリケーション パッケージの配備、再配備、または削除
- 通知の作成、または削除
- メニューの作成、または削除
- ユーザ / グループにアクションのアクセスを許可

---

**注** – アクションを正しく終了するには、ユーザはどの関連リソースに対するアクセスコントロールの条件にも適合している必要があります。例えば、メニューを削除する場合、ユーザはメニューの作成 / 削除アクションを実行できるだけでなく、削除するメニューの Write アクセスも持っている必要があります。

---

## Actions の Access Control をカスタマイズ

デフォルトでは、NX<sup>J</sup> コントロールセンタ管理者だけがアクションを実行できます。開発者は、NX<sup>J</sup> コントロールセンタの他のユーザが 1 つまたは複数のアクションを実行できる権限を与えることができます。

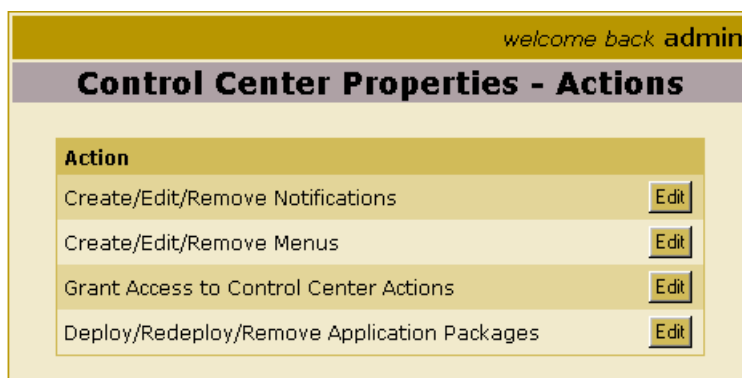
ただし、NX<sup>J</sup> コントロールセンタ管理者がアクションを実行するのを妨げることはできません。言い換えるなら、NX<sup>J</sup> コントロールセンタ管理者は、アクションを実行するためのアクセスが常に許可されています。

Actions の Access Control を変更するステップは、以下のとおりです。

1. **Control Center Administration > Control Center Properties > Actions** を選択します。

Control Center Properties -- Actions ページが表示されます。

このページを開くには、“Grant Access to Control Center Actions” の権限が必要です。(NX<sup>J</sup> 管理者には、すべてのアクションの権限があります。)



2. カスタマイズしたいアクションの **Edit** ボタンをクリックします。

Control Center Properties - Edit Action ページが表示されます。

**Control Center Properties - Edit Action**

**Action:** Grant Access to Control Center Actions

**Access Control:** None

Users: \_\_\_\_\_

Groups: \_\_\_\_\_

also allow Control Center Administrators

Note that Control Center administrators always have permission to perform Control Center actions regardless of any action permission settings.

**Submit** **Reset**

読み取り専用のこのフィールドに、選択したアクションが表示される

3. Access Control ドロップダウンリストから、このアクションに関連付けるアクセスコントロールのタイプを選択します。

None

None

All users

Only authenticated users

Specified users and/or groups

ドロップダウンリストには、以下の4つの選択肢があります。

- None
- All Users
- Only authenticated users
- Specified users and/or groups

このオプションを選択する場合は、アクションが実行できるユーザやグループも指定する必要があります。ユーザ名やグループ名を入力してください。

これらのオプションについては、[17 ページの表 3-1](#) を参照してください。



- 
4. **Submit** ボタンをクリックします。

## Resource の Access Control をカスタマイズ

リソースのアクセスコントロールをカスタマイズする方法は、以下のようにリソースによって異なります。

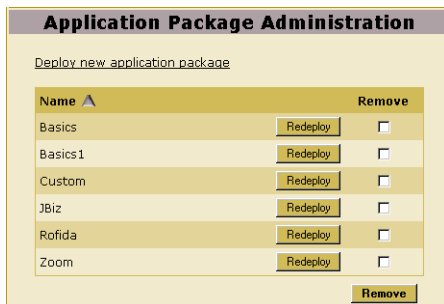
- Menus

**Control Center Administration > Menus** を選択し、アクセスコントロールの割当や変更を行うメニューの **Edit** ボタンをクリックします。

# アプリケーションの配備と管理

## 4

アプリケーションの配備と管理のタスクはすべて、Application Package Administration のページから開始します。このページにアクセスするには、**Control Center Administration > Application Packages** を選択します。



このページには、現在 NX<sup>i</sup> コントロールセンタに配備されているデザイン センタのアプリケーション パッケージがすべて表示されています。例えば、上の図には Basics、Basics1、Custom、JBiz、Rofida、Zoom の 6 つの配備されたアプリケーションがあります。

このページを使って、以下のタスクを実行します。

- 新規アプリケーションパッケージの配備
- 既存のアプリケーションパッケージの再配備
- アプリケーションパッケージの削除

---

## 新規アプリケーションパッケージの配備

Unify NX<sup>J</sup> デザインセンタで作成したアプリケーションパッケージだけが、NX<sup>J</sup> コントロールセンタで配備できます。Unify NX<sup>J</sup> アプリケーションパッケージの作成については、『Unify NX<sup>J</sup> 開発者ガイド』を参照してください。

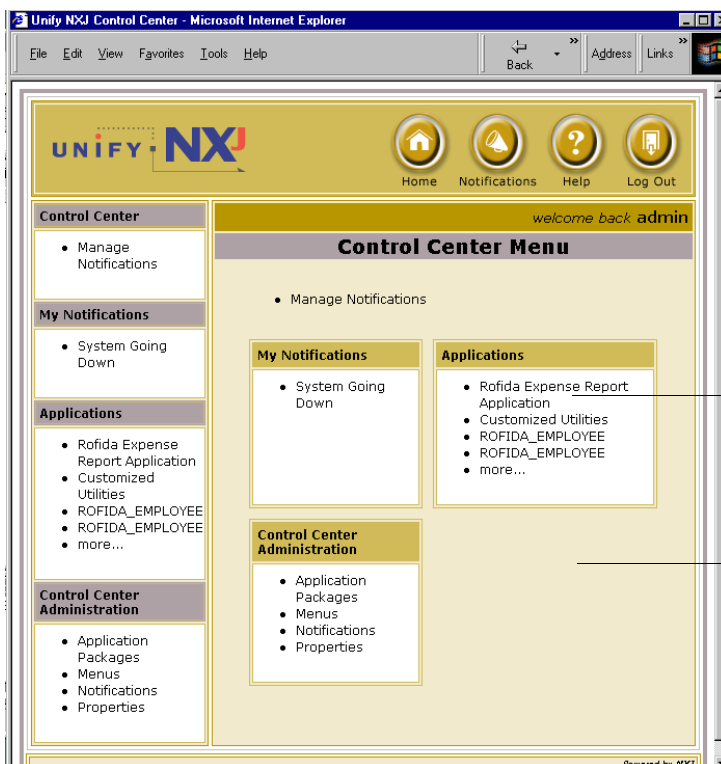
### アプリケーションの配備

アプリケーションパッケージを配備すると、アプリケーションのメニューとアクセスコントロール情報がNX<sup>J</sup> コントロールセンタにインストールされ、NX<sup>J</sup> コントロールセンタのユーザは、パッケージのフォームと他のリソースを利用できるようになります。

アプリケーションパッケージには、メニュー定義が含まれている必要はありません。その場合は、NX<sup>J</sup> 管理者ページを使ってエントリポイントをメニュー項目としてメニューに追加したり、URL から直接エントリポイントにアクセスすることができます。

## Menu 情報

アプリケーションパッケージは、エントリポイント名を追加するメニューの名称や、追加するエントリポイントオブジェクトを含んでいます。デフォルトでは、デザインセンタのプロジェクトは、アプリケーションメニューにエントリポイントを配置します。プロジェクトが配備されると、エントリポイントは以下に示すように、NX<sup>J</sup> Control Center Menu ページのメニュー項目として表示されます。



Application Menu への新規エントリポイントはここに追加される

次の新規 Menu はここに追加される

---

## Access Control 情報

アプリケーションパッケージのアクセスコントロール情報には、アプリケーションの定義済みエントリポイントごとにアクセスコントロールがあります。つまり、デフォルトを適用することで、以下のアクセスコントロールのいずれかを暗黙的、または明示的に指定することになります。

- All Users (デフォルト)
- Only Authenticated Users
- Specified Roles

この場合は、アクセスコントロールリストで1つまたは複数のロールを指定しました。アプリケーションパッケージが配備されると、実行環境に実際に存在するユーザやグループに、これらのロールをマップします。

アプリケーションが配備されると、アクセスコントロール条件に適合するユーザには、NX<sup>J</sup> コントロールセンタビューでメニュー項目（新規メニューの場合はそのメニュー）が表示されます。

---

**注** – 新規に追加したメニュー項目のメニューを調べたとき、アプリケーションパッケージの配備が失敗したように見えることがあります。アクセスコントロールの条件に適合しない場合は、それを見れません。代わりに、配備状況を表示するために、NX<sup>J</sup> Control Center Administration ページを使用します。

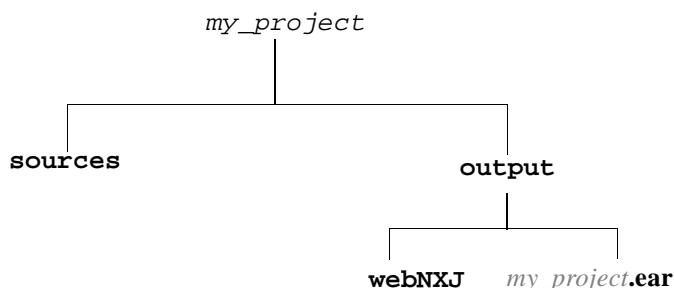
---

初めてアプリケーションパッケージを配備する場合は、以下のステップに従います。

### タスク 1：アプリケーションパッケージのディレクトリ位置

アプリケーションパッケージは、Web ブラウザを実行するホストからアクセスできる必要があります。つまり、配備するにはディレクトリとアプリケーションパッケージを読み込むパーミッションが必要です。

アプリケーション開発者からアプリケーションパッケージファイルを取得するか、ディレクトリ位置を取得します。アプリケーションパッケージとは、デザインセンタのプロジェクト名と同じ名前を持つ .ear ファイルです。 .ear ファイルは、以下のようにプロジェクトの “output” ディレクトリで作成されます。



`my_project` ディレクトリは、アプリケーション開発者がプロジェクトを作成したときに指定したプロジェクトの名前です。デフォルトでは、Design Center プロジェクトは、<Unify NXJWork>/**projects** に作成されます。

## タスク 2 : アプリケーションパッケージの配備

Deploy Application Package Wizard を利用して、アプリケーションパッケージを配備します。ウィザードが情報を収集してアプリケーションを配備します。

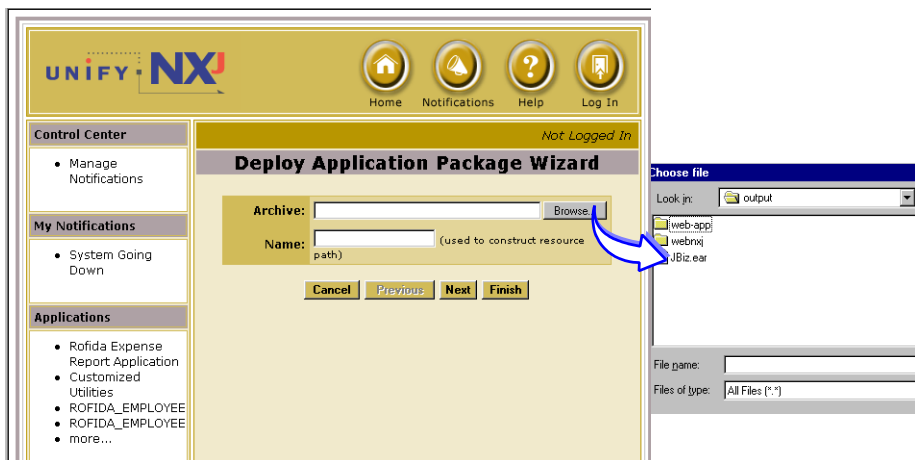
Deploy Application Package Wizard は、以下のステップで使用します。

1. **Control Center Administration > Application Packages** を選択します。  
Application Package Administration ページが表示されます。
2. [Deploy new application package](#) のリンクをクリックします。  
ウィザードの最初のパネルが表示されます。

3. Archive フィールドの隣にある **参照** ボタンをクリックしてファイルの選択にアクセスし、アプリケーション パッケージの .ear ファイルを指定します。指定するときは .ear ファイル名をダブルクリックします。

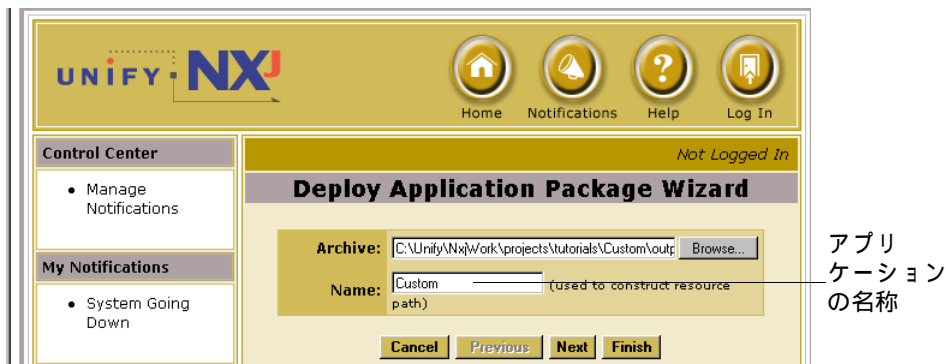
パッケージのファイル名が、Archive フィールドに表示されます。

または、Archive フィールドに .ear ファイルへの完全パス名を入力することもできます。



**注** – アプリケーションパッケージに必要な配備情報がこれ以上ない場合は、**Finish** ボタンをクリックすると配備が完了します。[30 ページの「タスク 3：アプリケーションのテスト」](#)に移動します。

4. Name フィールドで、フィールドのデフォルト名をクリックするか、NX<sup>J</sup> コントロールセンタのアプリケーション名を入力します。



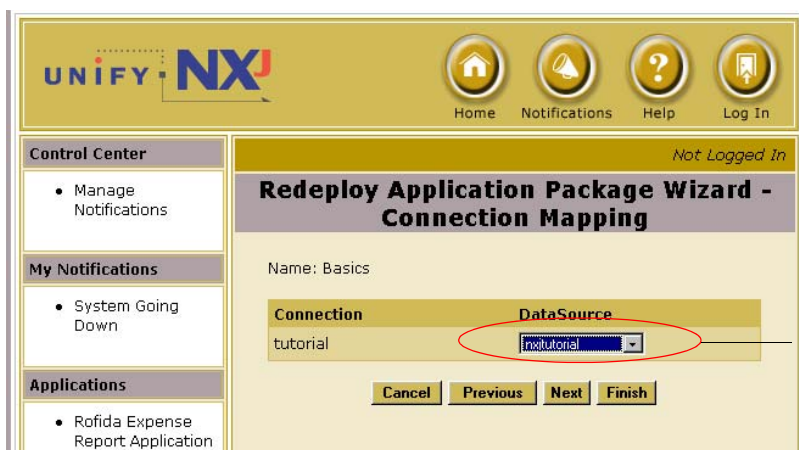
このパネルで指定する名称はメニュー定義の一部ではないので、ユーザには表示されませんが、NX<sup>J</sup> コントロールセンタシステムで、ユニークにこのアプリケーションのリソースを識別します。

このため、入力する名称はNX<sup>J</sup> コントロールセンタでユニークであることが必要です。Name フィールドをクリックすると、フィールドにはデフォルト名が適用されます。デフォルト名は、アーカイブのファイル名と同じですが、拡張子はありません。

5. **Next** ボタンをクリックすると Connection Mapping panel が開きます。

このパネルは、アプリケーションパッケージが接続定義を含む場合にだけ表示されます。





Java アプリケーションサーバに識別されるデータソース

アプリケーションパッケージの各接続定義は、“Connection”の列のパネルの左側に表示されます。ドロップダウンリストボックスから関連するデータソース名を選択します。リストボックスの項目は、Java アプリケーションサーバに現存するデータソース定義に基づいています。

このアプリケーションが必要とするデータソースがリストにない場合、Java アプリケーションサーバインタフェースを使って、データソースを定義してから配備します。

デフォルトでは、データソースがある場合、接続はマップ先の名称と一致するデータソースにマップされます。

**注** – 注：WebLogic 6.1 では、Data Sources と Tx Data Sources の 2 つのデータソースがサポートされていますが、NXJ アプリケーションでは Tx Data Sources しか動作しません。

6. **Finish** ボタンをクリックすると配備が完了します。

配備が完了すると、アプリケーションパッケージが Java アプリケーションサーバに配備されます。

---

### タスク 3 : アプリケーションのテスト

アプリケーションパッケージが配備されたら、アプリケーションアクセスがテストできます (認証されたアプリケーションユーザの場合)。

アプリケーションによって追加された新規メニュー項目を指定し、正しいエントリーポイントフォームが表示されていることを確認します。

デフォルトでは、アプリケーションエントリーポイントはアプリケーションメニューに追加されます。アプリケーションパッケージのメニュー定義についてさらに詳しい情報が必要な場合は、アプリケーション開発者に確認してください。

以下のアプリケーションのカスタマイズを行うことができます。

- メニューの変更

### タスク 4 : アプリケーションが利用できることをユーザに通知

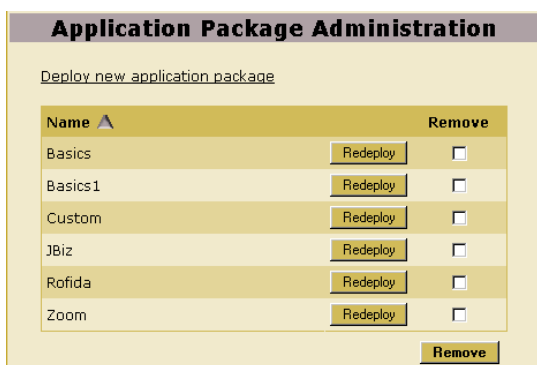
アプリケーションユーザに利用できることを通知するには、NX<sup>J</sup> コントロールセンタ通知を作成します。通知対象者が、新しく配備したアプリケーションのユーザであることを確認します。

ユーザには、アプリケーションにアクセスするために使用するメニューを必ず伝えます。

通知についての詳細は、[47 ページの「通知管理」](#)を参照してください。

## 配備されたアプリケーション情報の表示

配備されたアプリケーションは、Application Package Administration ページを使って表示します。このページにアクセスするには、**Control Center Administration > Application Packages** を選択します。



## アプリケーションの再配備

アプリケーションを再配備するには、Redeploy Application Package Wizard を使用します。通常、アプリケーションはアプリケーションフォームが追加または変更した場合は、アプリケーションを再配備する必要があります。

Redeploy Application Package Wizard は、すべてのパネルのフィールドが、前に配備したアプリケーションパッケージで指定した内容をデフォルトにしている場合を除いて、Deploy Application Package Wizard と同じパネルを使用します。

## アプリケーションパッケージの削除

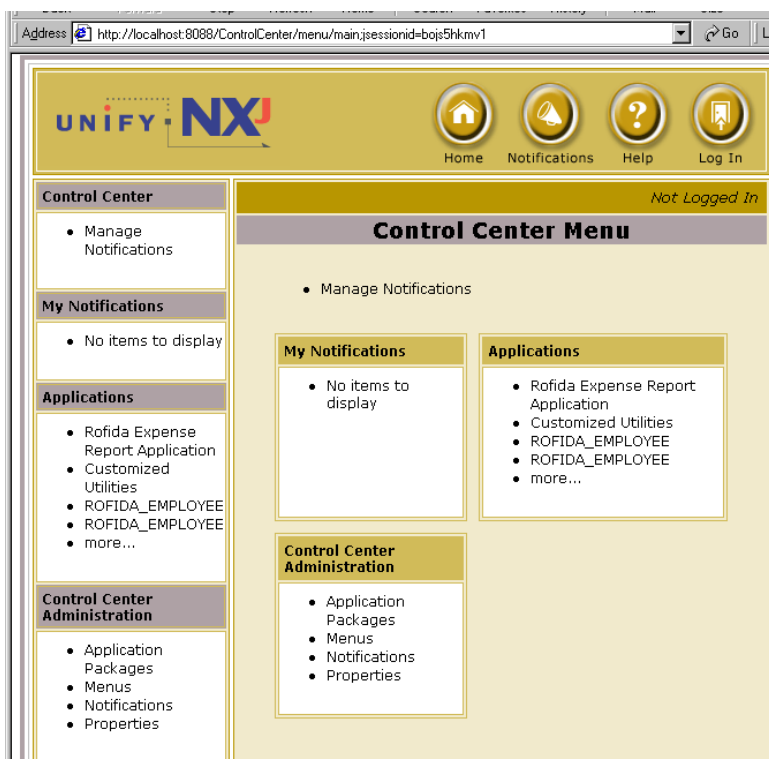
アプリケーションパッケージと関連リソースをすべてを完全に削除するには、Application Package Administration ページを使用します。このページにアクセスするには、**Control Center Administration > Application Packages** を選択します。

格納領域とパフォーマンスを最大化するために、ユーザが必要としなくなったアプリケーションパッケージを削除する必要があります。アプリケーションパッケージはカレントユーザに通知せずに削除できますが、アプリケーションを終了するようにユーザに通知した方が良いでしょう。

アプリケーションパッケージを削除するには、まず **Remove** チェックボックスを設定して、次に **Remove** ボタンをクリックします。

Name ▲		Remove
Basics	Redeploy	<input type="checkbox"/>
Basics1	Redeploy	<input checked="" type="checkbox"/>
Custom	Redeploy	<input type="checkbox"/>
JBiz	Redeploy	<input type="checkbox"/>
Rofida	Redeploy	<input type="checkbox"/>
Zoom	Redeploy	<input type="checkbox"/>

NX<sup>J</sup> コントロールセンタメニューは、NX<sup>J</sup> コントロールセンタで利用可能なリソースへのアクセスを提供します。デフォルトのNX<sup>J</sup> コントロールセンタには、変更可能な定義済みメニューが用意されています。また、追加メニューを作成することもできます。定義済みの“メイン”メニューは以下のように表示されます。



---

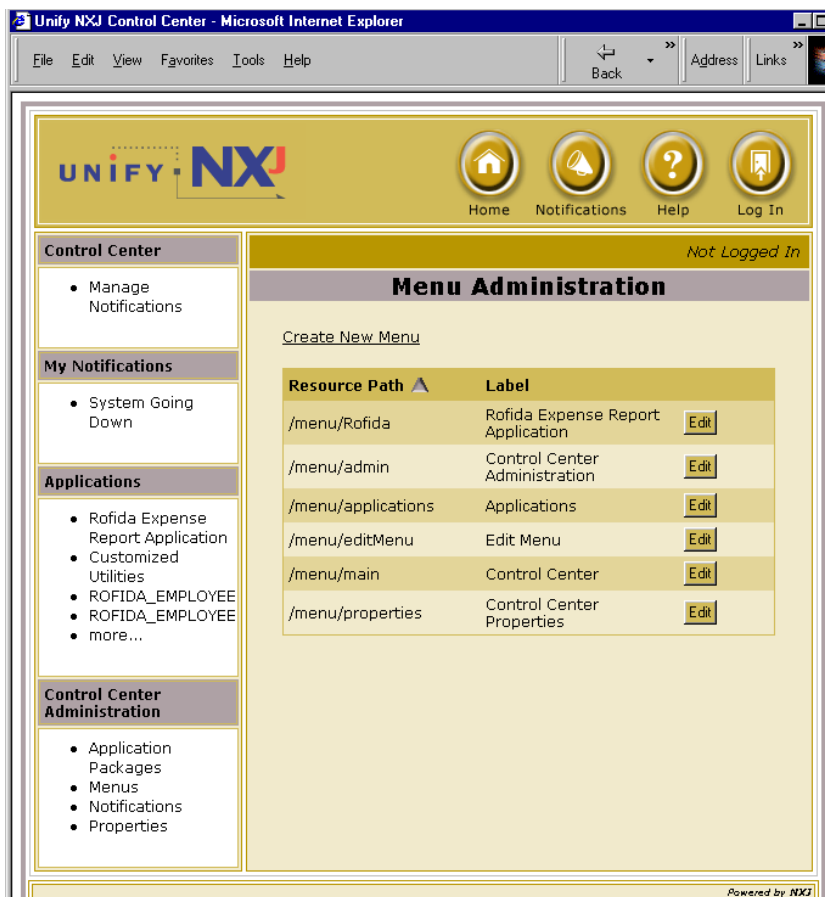
NX<sup>J</sup> コントロールセンタ メニューには、2つのサブメニューがあります。

- アプリケーションメニュー。アプリケーションエントリポイントのデフォルトメニューとして使用されます。配備するアプリケーションパッケージによっては、別のメニューが表示されることもあります。その場合は、アプリケーションメニューは不要なので、削除することができます。
- NX<sup>J</sup> コントロールセンタ管理メニュー。NX<sup>J</sup> コントロールセンタを維持管理するために使用する管理ページへのアクセスを提供します。このメニューは削除できません。ただし、必要に応じてメインメニューから削除できます。

メインメニューページに表示される My Notifications グループは、通知へのアクセスに使用する特別なビューです。

メニュー管理は、すべて Menu Administration ページから開始します。このページにアクセスするには、**Control Center Administration > Menus** を選択します。

このページを表示するには、メニューの変更ができる権限が必要です。すでに説明したように、NX<sup>J</sup> コントロールセンタ管理者には、すべてのアクションを実行する権限があります。



Menu Administration ページには、現在 NXJ コントロールセンタで定義されているメニューへのエントリがあります。Resource Path の列には、NXJ コントロールセンタネームスペースのメニューデータの場所が表示されます。メニューのリソースパスは“/menu/menuName”のように表示されます。menuName はメニューの名称です。

メニュー名は、NXJ コントロールセンタ内のメニューをユニークに区別します。このため、新規メニューには既存メニューのいずれとも異なる menuName である必要があります。

Label の列には、関連するメニューのロケール対応ラベルが表示されます。このラベルは、メニュー名として NX<sup>J</sup> Control Center ページに表示されるものです。

以下のセクションでは、メニューに関連する次のタスクについて説明します。

- 新規メニューの作成
- メニュー項目の追加と更新
- メニューの削除
- メニュープロパティの変更
- メニューのアクセスコントロールを設定
- メニューのローカライズ

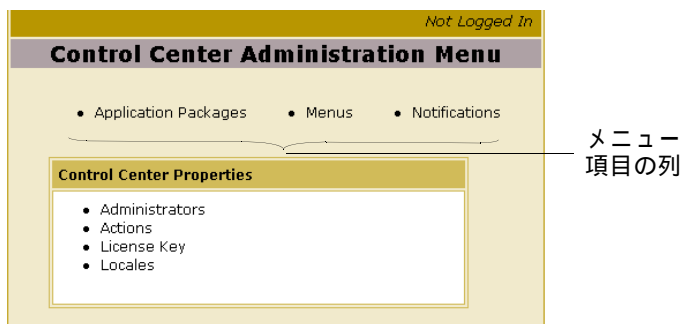
## 新規メニューの作成

メニューを作成する場合、NX<sup>J</sup> コントロールセンタでラベルと配置情報を定義します。メニューを作成するにあたって、以下のようなメニューの特徴を理解しておく必要があります。

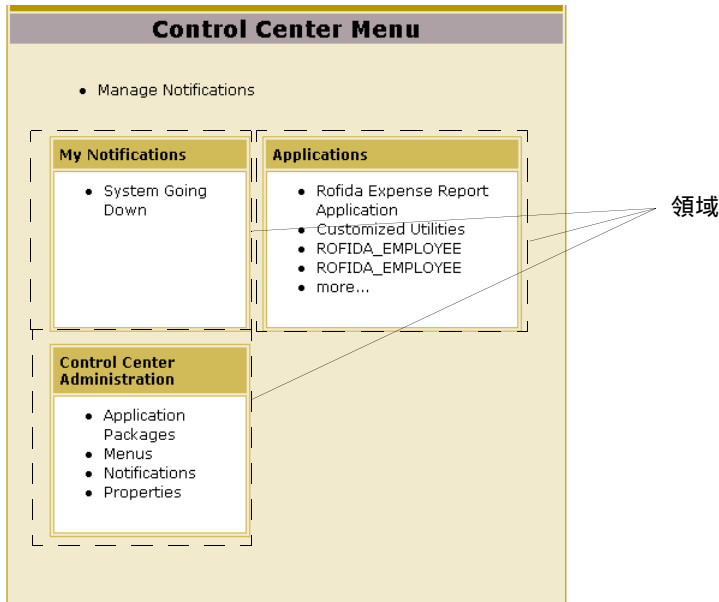
- Default Label とはメニューのタイトルです。例えば、以下の “Applications” などです。このラベルは、ロケール対応ラベルがある場合はオーバーライドされるので、“デフォルト” です。
- Default Short Label とは、コンテンツパネルに表示される細長いウィックメニューパネルやメニュー領域に使用するメニューラベルのオプション版です。このラベルはオプションです。入力していない場合は、デフォルトラベルが使用されます。



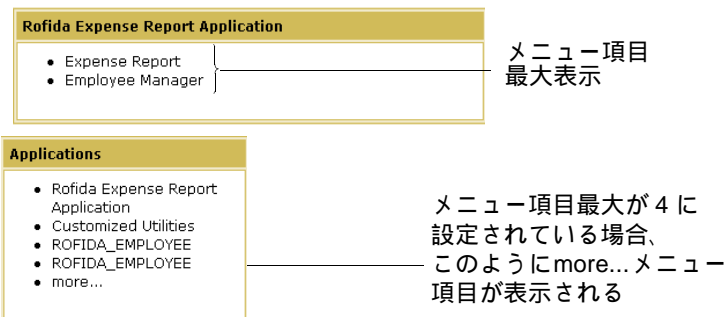
- Menu-item columns では、コンテンツパネルに表示するメニュー項目の列の数を指定します。メニュー項目はこの列で縦に表示され、等間隔で区切られます。デフォルトは3です。例えば、以下のようになります。



- Menu region columns では、コンテンツパネルのメニューに表示するメニュー領域の列の数を指定します。メニュー領域は、このメニューのサブメニューです。デフォルトは2です。例えば、以下のようになります。



- Menu-item max display とは、クイックメニューパネルやコンテンツパネルの他のメニューでメニュー領域として表示される場合、このメニューで表示するメニュー項目の数です。実際のメニュー項目が指定した値よりも多い場合は“**more ...**”ラベルが表示されます。デフォルトは5です。



メニューに含まれるメニュー項目については、別に定義されています。[40 ページ](#)の「[メニュー項目の追加と更新](#)」を参照してください。

新規メニューを作成するには、以下のステップのとおりです。

1. Menu Administration ページで、[Create New Menu](#) リンクを選択します。  
Create Menu ページが表示されます。

welcome back admin

### Create Menu

Name:  (used to construct resource path)

Default Label:

Default Short Label:  (optional)

Menu-item columns:  (blank uses system default: 3)

Menu region columns:  (blank uses system default: 2)

Menu-item max display:  (blank uses system default: 5)

Description:

2. Name フィールドに、メニューの名称を入力します。メニューの名称は、NX<sup>J</sup> コントロールセンタ内でユニークであり、大文字と小文字を区別する必要があります。
3. Default Label フィールドに、メニューのデフォルトラベルを入力します。
4. (オプション) Default Short Label フィールドに、クイックメニューパネルまたはメニュー領域のデフォルトラベルを入力します。
5. (オプション) Menu-item columns フィールドに、メニューページのメニュー項目セクションで使用する列の数を入力します。
6. (オプション) Menu region columns フィールドに、メニューページのメニュー領域セクションで使用する列の数を入力します。
7. (オプション) Menu-item max display フィールドに、NX<sup>J</sup> コントロールセンタがクイックメニューパネルまたはメニュー領域にメニューを表示しているときに表示する“メニュー項目”行の最大数を入力します。

値がゼロ (0) の場合は、このメニューには more... を含めて一切の項目が表示されません。この場合、メニューのヘッダだけが表示されます。

8. (オプション) Description フィールドに、メニューの説明を入力します。  
説明があると、メニューを管理する場合に便利です。ユーザには、メニューの説明は表示されません。
9. **Submit** ボタンをクリックします。  
新規メニューが作成されます。
- Edit Menu - Menu Items ページが表示されます。必要に応じて、ここで新しく作成したメニューにメニュー項目を追加することができます。または、後で追加することもできます。
- 新規メニューには、アクセスコントロールも必ず割り当てます。デフォルトでは、新規メニューには Read:All Users、Write:All Users が設定されています。詳細については、[43 ページの「メニューのアクセスコントロールを設定」](#)を参照してください。

## メニュー項目の追加と更新

アプリケーションパッケージを NX<sup>J</sup> コントロールセンタに配備すると、通常は、既存のメニューや新規メニューに1つ、または複数のメニュー項目が追加されます。このセクションで説明するステップを使うと、明示的にメニュー項目を追加、変更、削除できます。

メニューのメニュー項目を追加または更新するには、Edit Menu - Menu Items ページを使用します。このページにアクセスするには、Menu Administration ページのメニューで **Edit** ボタンをクリックします。次に、コンテキストメニューでメニュー項目をクリックします。

welcome back admin

### Edit Menu - Menu Items

Menu Name: Rofida

Move	Resource Path	Label	Remove
<input type="radio"/>	/entry/Rofida/XReport	Expense Report	<input type="checkbox"/>
<input type="radio"/>	/entry/Rofida/EmployeeMgt	Employee Manager	<input type="checkbox"/>

ページには、メニューに対する現在のメニュー項目がある場合は表示されます。

リソースパスには、メニュー項目として以下のいずれかのリソースを含めることができます。

- メニュー
- Unify NX<sup>J</sup> アプリケーションのエントリポイントフォーム

メニューのリソースパスは、以下のようになります。

```
/menu/<menu name>
```

“myMenu” というメニューのリソースパスは、以下のようになります。

```
/menu/myMenu
```

アプリケーションのエントリポイントフォームでは、リソースパスは以下のようになります。

```
/entry/<package name>/<entry point name>
```

パッケージ名は、アプリケーションパッケージが配備されると指定されます。アプリケーション開発者は、少なくとも1つのフォームをエントリポイントとして指定しているはずなので、エントリポイント名はパッケージで定義されます。

あるパッケージが“myPackage”として配備され、フォームのエントリポイント名が“myEntryForm”に指定された場合、メニュー項目のリソースパスは、以下のようになります。

```
/entry/myPackage/myEntryForm
```

新規メニュー項目は、以下のステップで追加します。

1. 空フィールドに、リソースの Resource Path を入力します。

リソースパスはスラッシュ（'/'）で始まっており、NX<sup>J</sup> コントロールセンタのコンテキストパスに関連していると見なされます。

ピリオドやプロトコルで始まるリソースパスを入力すると、このパスは拒否されます。

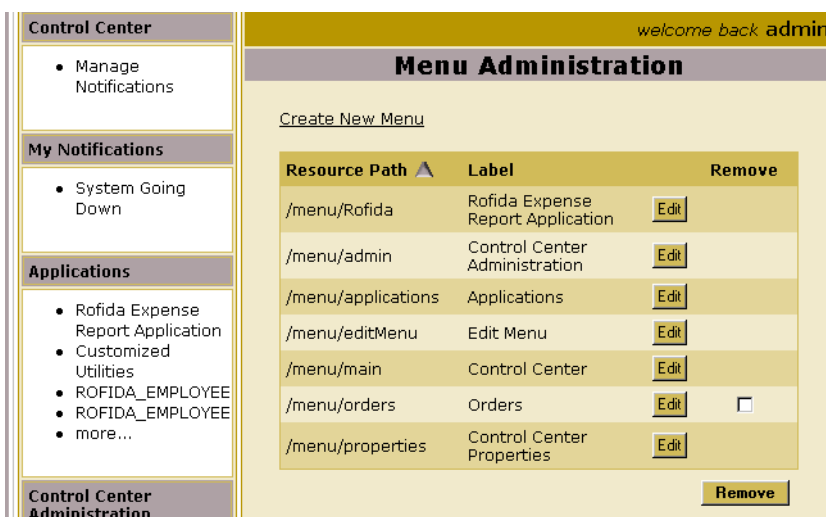
2. 必要に応じてメニュー項目の **Radio** ボタンをクリックし、上下の矢印をクリックして、リストを並べ替えます。

3. **Submit** ボタンをクリックします。

メニュー項目を完全に削除するには、Remove チェックボックスを設定して **Submit** ボタンをクリックします。

## メニューの削除

メニューは、Menu Administration ページを使って削除します。



The screenshot displays the 'Menu Administration' interface. On the left is a sidebar with sections: 'Control Center' (Manage Notifications), 'My Notifications' (System Going Down), 'Applications' (Rofida Expense Report Application, Customized Utilities, ROFIDA\_EMPLOYEE, ROFIDA\_EMPLOYEE, more...), and 'Control Center Administration'. The main content area is titled 'Menu Administration' and includes a 'Create New Menu' link. Below is a table of menu items:

Resource Path ▲	Label	Remove
/menu/Rofida	Rofida Expense Report Application	<input type="button" value="Edit"/>
/menu/admin	Control Center Administration	<input type="button" value="Edit"/>
/menu/applications	Applications	<input type="button" value="Edit"/>
/menu/editMenu	Edit Menu	<input type="button" value="Edit"/>
/menu/main	Control Center	<input type="button" value="Edit"/>
/menu/orders	Orders	<input checked="" type="checkbox"/>
/menu/properties	Control Center Properties	<input type="button" value="Edit"/>

A  button is located at the bottom right of the table.

メニューを削除するには、削除するメニューの Remove チェックボックスを設定して、**Remove** ボタンをクリックします。

事前定義されているメニューの一部には、削除できないものもあります。このようなメニューの Remove チェックボックスは表示されません。また、アプリケーションパッケージのエントリポイントへのメニュー項目があるメニューは、削除できません。

## メニュープロパティの変更

メニューを作成したときに指定したメニュープロパティは、変更することができます。例えば、メニュー項目の最大ディスプレイ サイズは変更できます。

プロパティを変更するには、Menu Administration ページのメニューで **Edit** ボタンをクリックします。Edit Menu - Properties ページが表示されます。このページは、Create Menu ページと同じものです。

**Submit** ボタンをクリックすると、メニューが更新されます。

## メニューのアクセスコントロールを設定

メニューには、Read Access と Write Access の 2 つのアクセスコントロールが設定できます。Read Access ではメニューを表示できるユーザを指定し、Write Access ではメニューを更新 / 削除できるユーザを指定します。

指定できるアクセスコントロールのタイプは以下のとおりです。

表 5-1      *メニューの Access Control*

設定	Access Control のタイプ
Read Access	All users Only authenticated users Specified users and/or groups
Write Access	All users Only authenticated users Specified users and/or groups

デフォルトでは、Read Access と Write Access は、新規メニューのすべてのユーザに設定されています。

**警告** – ユーザが、リソースへの Write Access を使って、そのリソースへのすべてのアクセスを完全に拒否することができます。Write Access とは、ユーザがそのリソースへのアクセスコントロールを変更し、そのリソースへのアクセスがあるユーザやグループのリストからユーザを削除できることを意味します。

メニューのアクセスコントロールを設定するステップは、以下のとおりです。

1. Menu Administration ページで、変更したいアクセスコントロールのメニューの **Edit** ボタンをクリックします。

Edit Menu ページが表示されます。このページが表示されると、クイックメニューにコンテキストメニュー “Edit Menu” が追加されます。

2. クイックメニューの Edit Menu メニューで、Access Control を選択します。  
Edit Menu - Access Control ページが表示されます。

The screenshot shows a web interface for editing menu access control. The page title is "welcome back admin" and the main heading is "Edit Menu - Access Control". Below the heading, it says "Menu Name: Rofida". There are two sections: "Read Access" and "Write Access". Each section has a dropdown menu set to "All users", followed by "Users:" and "Groups:" input fields. Below each section is a checked checkbox labeled "also allow Control Center Administrators". At the bottom, there are "Submit" and "Reset" buttons.

3. Read Access で、アクセスコントロールのタイプを選択します。

“Specified users and/or groups” を選択した場合は、そのユーザやグループの名称を指定します。

Users フィールドは、対応するパーミッションが与えられるユーザ名のカンマ区切りリストです。

Groups フィールドは、対応するパーミッションが与えられるグループ名のカンマ区切りリストです。

NX<sup>J</sup> コントロールセンタ管理者に Read Access を設定しない場合は、チェックボックスをクリアにします。



4. Write Access でも、Read Access の場合と同じようにアクセスコントロールのタイプを選択します。
5. **Submit** ボタンをクリックします。

## メニューのローカライズ

NX<sup>J</sup> コントロールセンタのメニューで使用するラベルのロケール対応版を作成し、管理できます。メニューにエントリポイントが表示されると、そのラベルが使用されます。ラベルを表示する場合、最も近いロケール対応が使用されます。最も近いロケール対応がない場合、デフォルトのラベルが使用されます。

ロケール対応版は、以下の表に示すように、特定のロケールに基づいています。

表 5-2

ロケール	ロケール対応ラベル
en	Apps
en_US	Apps
sp	Aplicaciones

ローカライズしたラベルを作成する前に、NX<sup>J</sup> コントロールセンタにロケールを設定する必要があります。ロケールを設定するには、Control Center の **Properties** > **Locales** を選択します。詳細については、[55 ページの「Locales」](#)を参照してください。

ロケール対応版のラベルを作成したり編集するステップは、以下のとおりです。

1. Menu Administration ページで、ローカライズしたラベルを追加するメニューの **Edit** ボタンをクリックします。
2. クイックメニューで Localization を選択します。  
Edit Menu - Localization ページが表示されます。

welcome back admin

### Edit Menu - Localization

[Add To List of Supported Locales](#)

Menu Name: Rofida

Default Label: Rofida Expense Report Application  
Default Short Label: null

Locale	Localized Label	Localized Short Label
en_US	<input type="text"/>	<input type="text"/>
sp	<input type="text"/>	<input type="text"/>

NX<sup>J</sup> コントロールセンタで定義されたロケールが各行に表示されます。

行は、ロケール名のアルファベット順に並んでいます。

- Localized Label フィールドと Localized Short Labe フィールドに、ロケール対応版のラベルを入力します。

このフィールドをブランクのままにしておくと、NX<sup>J</sup> コントロールセンタは最も適切にローカライズされたテキストをロケール階層で検索します。

例えば、Web ブラウザが “en\_US\_variant1” というロケールを要求し、NX<sup>J</sup> コントロールセンタがラベルで使用するローカライズされたテキストを必要とする場合、NX<sup>J</sup> コントロールセンタは、まず、ローカライズされたテキストが “en\_US\_variant1” ロケールに該当するかどうかを判断します。テキストがあれば使用し、なければ “en\_US” ロケール対応でローカライズされたテキストを探します。テキストがあればそのテキストを使用し、なければ “en” ロケール対応でローカライズされたテキストを探します。テキストがあればそのテキストを使用し、なければ Default Label を使用します。

Default Label は、Edit Menu - Properties ページで定義します。

- 他のロケールについても同じステップを繰り返します。
- Submit** ボタンをクリックします。

通知により、アクセスしているリソースに関連がある NX<sup>J</sup> コントロールセンタユーザに情報を伝えることができます。例えば、通知によって、アクセスするアプリケーションが一定時間オフラインになることを知らせることができます。

ユーザは、View Notification ページを使って通知を表示します。このページにアクセスするには、クイックメニューパネルの My Notifications メニューで特定の通知を選択します。



ユーザ宛の通知が作成されると、自動的にユーザのビューに表示されます。ユーザが通知を取得する必要はありません。通常、ユーザは通知を読むと破棄します。破棄された通知は“My Notifications”メニューには表示されません。

ユーザが通知を読んだ後で破棄しないことを選択すると、この通知は“My Notifications”メニューに残り、“read”（既読）フラグが設定されます。

**注** – 認証された NX<sup>J</sup> コントロールセンタユーザのみが、自分の通知を破棄できます。匿名ユーザには、通知の既読 / 未読状態が表示されず、通知を破棄できません。

NX<sup>J</sup> コントロールセンタ 管理者は、NX<sup>J</sup> コントロールセンタ ユーザ宛の通知を作成したり、他の NX<sup>J</sup> コントロールセンタユーザが作成した通知を含む既存の通知を管理することができます。

通知の宛先は特定の NX<sup>J</sup> コントロールセンタユーザやユーザのグループで、通知の受取人です。受取人は、以下のように指定します。

表 6-1 通知の受取人

受取人のカテゴリ	説明
All users	匿名ユーザと認証されたユーザの両方が通知を受け取ります。
Only anonymous users	匿名ユーザだけが通知を受け取ります。
Only authenticated users	認証されたユーザだけが通知を受け取ります。
Specified users and/or groups	個別に指定されたユーザや、グループ名で指定されたユーザだけが通知を受け取ります。

通知は、Notification Administration ページで作成 / 管理できます。このページを表示するには、**Control Center Administration Menu > Notifications** を選択します。

welcome back admin

## Notification Administration

[Create New Notification](#)

Subject	Author	Posted ▼	Remove
System Going Down	admin	10/4/02 1:51:23 PM	<input type="button" value="Edit"/> <input type="checkbox"/>

このページには、NX<sup>J</sup> コントロールセンタの通知がすべて含まれています。デフォルトでは、通知は作成日時（送信された場合）の昇順で表示されています。Posted の列のヘッダの隣にある矢印をクリックすると、降順に並べ替えることができます。また、どの列のヘッダをクリックしても列を並べ替えることができます。

このページを使うと、通知に関連する以下のタスクが実行できます。

- 新しい通知の作成
- 通知の変更
- 通知の削除

ユーザは自分の通知を作成 / 管理することもできます。『Unify NX<sup>J</sup> ユーザーズガイド』を参照してください。

## 通知の作成

通知を作成するステップは、以下のとおりです。

1. Notification Administration ページで、[Create New Notification](#) リンクを選択します。

Create Notification ページが表示されます。

welcome back admin

### Create Notification

**Subject:**

**Text:**

**Recipients:**

Users:

Groups:

Control Center Administrators

2. Subject に通知の件名を入力します。
3. Text フィールドに通知内容を入力します。
4. Recipients グループのドロップダウンリストで、以下のいずれかのオプションを選択し、誰に通知を表示するかを指定します。
  - None
  - All users
  - Only anonymous users.
  - Only authenticated users.
  - Specified users and/or groups. ユーザとグループ名の組み合わせを指定します。
5. NX<sup>J</sup> コントロールセンタ管理者にもこの通知を表示する場合は、NX<sup>J</sup> Control Center Administrators チェックボックスを設定します。

6. **Submit** ボタンをクリックします。  
通知が作成されます。

## 通知の変更

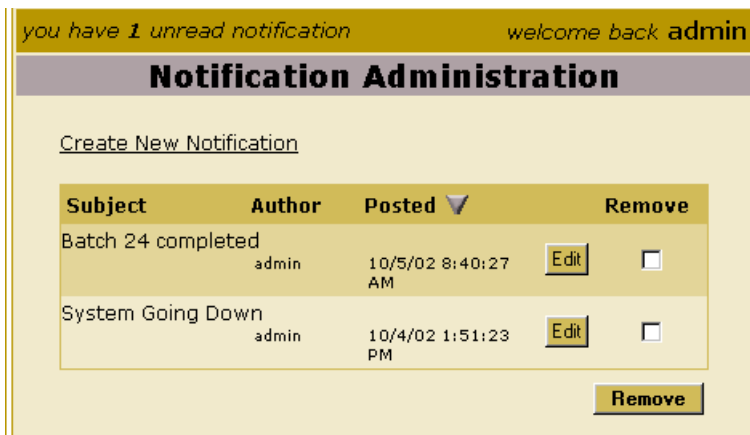
通知を変更して再発行することができます。通知の内容や、通知作成時に指定した任意のプロパティを変更できます。

1. Notification Administration ページで、変更する通知の **Edit** ボタンをクリックします。  
通知の任意フィールドを変更します。フィールドの意味は、Create Notification ページの対応フィールドと同じです。
2. .すでに通知を破棄したユーザや読んでしまったユーザに、もう一度通知を表示させたい場合は、“Revert to unread for all recipients” チェックボックスを設定します。  
受取人が通知リストを表示すると、その通知をすでに読んでいる場合や破棄している場合でも、全員に通知が（未読として）表示されます。（匿名ユーザには、通知の既読 / 未読状態は表示されません）。
3. **Submit** ボタンをクリックします。  
通知が発行されます。

## 通知の削除

通知を削除するには、まず Notification Administration ページで対象となる通知を指定します。

次に、Remove チェックボックスを設定して、**Remove** ボタンをクリックします。



The screenshot shows the Notification Administration interface. At the top, it displays "you have 1 unread notification" and "welcome back admin". Below this is a header "Notification Administration" and a link "Create New Notification". A table lists two notifications:

Subject	Author	Posted		Remove
Batch 24 completed	admin	10/5/02 8:40:27 AM	<input type="button" value="Edit"/>	<input type="checkbox"/>
System Going Down	admin	10/4/02 1:51:23 PM	<input type="button" value="Edit"/>	<input type="checkbox"/>

At the bottom right of the table area, there is a **Remove** button.



# NX<sup>J</sup> Control Center の カスタマイズ

---

7

この章では、NX<sup>J</sup> コントロールセンタで異なるバージョンのメニューを作成する方法と、ローカライズされた（翻訳された）テキストを作成する方法を説明します。

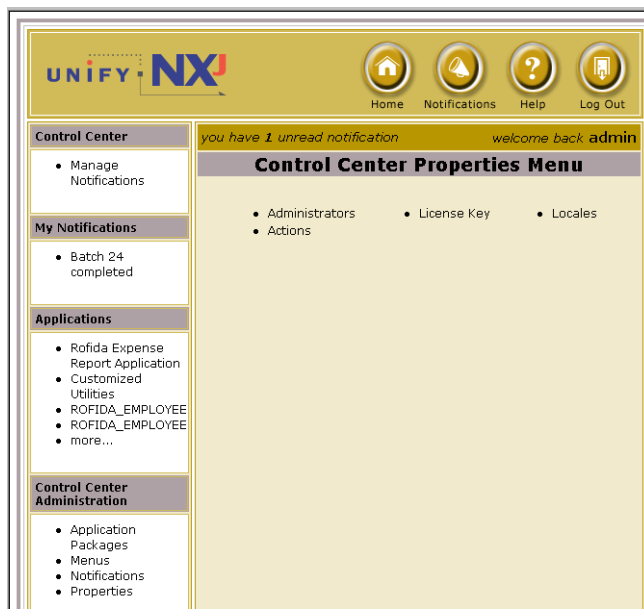
## Actions

アクションのアクセスコントロールを編集して、ユーザの通知やメニューを作成、編集、削除できる権限を変更することができます。また、このコントロールを編集して、ユーザがアプリケーションパッケージを配備、再配備、削除する権限も変更できます。

アクセスコントロールを編集するステップは、以下のとおりです。

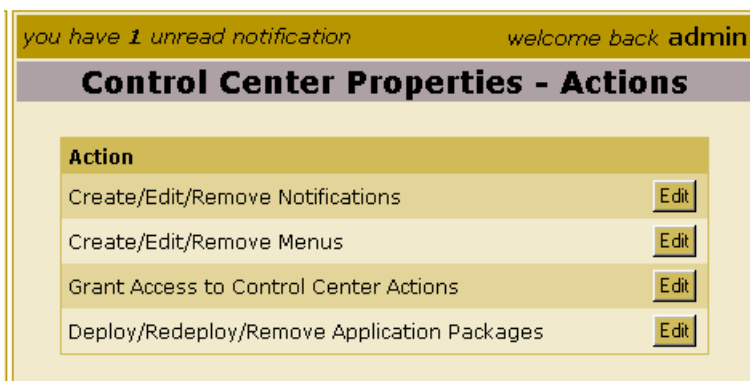
1. メイン メニューの NX<sup>J</sup> **Control Center Administration** で **Properties** をクリックします。

NX<sup>J</sup> Control Center Properties Menu が表示されます。



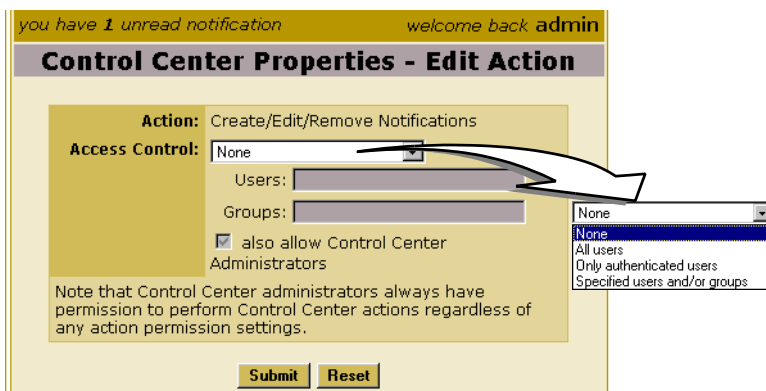
2. **Actions** をクリックします。

Control Center Properties - Actions メニュー が表示されます。



3. 編集したいアクションの **Edit** ボタンをクリックします。例えば、Create/Edit/Remove Notifications の Edit ボタンをクリックします。

そのアクションの Edit Actin ページが表示されます。



4. ドロップダウンリストでユーザを選択します。
5. 変更を保存するには **Submit** ボタンをクリックします。

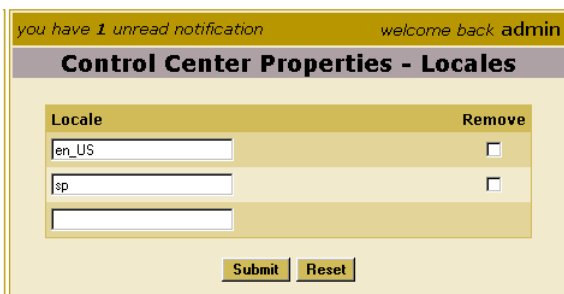
Action リストの他の項目も同じ方法で編集できます。

## Locales

NX<sup>J</sup> コントロールセンタのリソースにロケール対応ラベルを作成できます。Web ブラウザが NX<sup>J</sup> コントロールセンタに接続すると、表示するラベルを正しく選択するために、この Web ブラウザのロケールが使用されます。

ローカライズされたラベルのテキストを指定する前に、ラベルに関連するロケールを定義する必要があります。

ロケールを設定するには、**Control Center Properties > Locales** を選択します。  
Control Center Properties - Locales ページが表示されます。



The screenshot shows the 'Control Center Properties - Locales' page. At the top, there is a notification bar that says 'you have 1 unread notification' and a welcome message 'welcome back admin'. Below this is the title 'Control Center Properties - Locales'. The main content area contains a table with two columns: 'Locale' and 'Remove'. The 'Locale' column has three rows: the first contains 'en\_US', the second contains 'sp', and the third is empty. The 'Remove' column has three rows, each with a checkbox. Below the table are two buttons: 'Submit' and 'Reset'.

新しいロケールを追加するには、Locale の列の空のフィールドにロケール名を入力して、**Submit** ボタンをクリックします。ロケール名では、大文字と小文字が区別されます。また、ブラウザから渡されたロケール名と一致している必要があります。

アプリケーションパッケージのロケール名は、アプリケーションパッケージが配備されると作成されます。

既存のロケールを削除するには、Remove チェックボックスを設定して、次に **Submit** ボタンをクリックします。

ローカライズされたラベルを追加するには、[45 ページの「メニューのローカライズ」](#)を参照してください。

# ccmanage ユーティリティ

A

**ccmanage** ユーティリティは、NX<sup>J</sup> コントロールセンタを配備、削除、更新するために使用します。

Windows でこのユーティリティを起動するには、**プログラム > Unify NXJ > コントロールセンタ管理ツール** を選択します。

Unix でこのユーティリティを起動するには、コマンドラインで **ccmanage** と入力します。

## NX<sup>J</sup> コントロールセンタの配備

インストール時に NX<sup>J</sup> コントロールセンタを配備しなかった場合や、現在使用しているのは別の Java アプリケーションサーバに配備する場合、Windows では以下のステップを使って NX<sup>J</sup> コントロールセンタアプリケーションを配備できます。(Unix でこのユーティリティを起動するには、コマンドラインで **ccmanage** と入力します。)

1. **スタート > プログラム > Unify NXJ > コントロールセンタ管理ツール** を選択します。  
NX<sup>J</sup> コントロールセンタ管理ダイアログが表示されます。コントロールセンタを配備の **ラジオ** ボタンは、設定されています。
2. **次へ** ボタンをクリックします。  
コントロールセンタを配備ダイアログが表示されます。
3. デフォルトの Unify eWave Engine を適用するか、ラジオ ボタンの他のアプリケーションサーバをクリックします。
4. **次へ** ボタンをクリックします。  
ユーザ / パスワードダイアログが表示されます。
5. ユーザ : admin、パスワード : admin と入力します。

6. **OK** ボタンをクリックします。  
コントロールセンタの設定ダイアログが表示されます。
7. デフォルトの NX<sup>J</sup> コントロールセンタ名を適用するか、名称を入力します。  
デフォルトサーバを適用するか、ドロップダウンリストからいずれかを選択します。
8. **配備** ボタンをクリックします。  
配備状況ダイアログが表示されます。配備が完了すると完了 / 成功ダイアログが表示されます。
9. **閉じる** ボタンをクリックします。

## NX<sup>J</sup> コントロールセンタの更新

新しいリリースの Unify NX<sup>J</sup> をインストールする場合は、NX<sup>J</sup> コントロールセンタアプリケーションも更新する必要があります。何らかの理由でインストール時に NX<sup>J</sup> コントロールセンタアプリケーションが更新されなかった場合、上記のステップで更新することができます。

## NX<sup>J</sup> コントロールセンタの削除

Java アプリケーションサーバから、NX<sup>J</sup> コントロールセンタアプリケーションを削除する必要はありません。テストやデバッグのために別の NX<sup>J</sup> コントロールセンタアプリケーションを配備した場合は、最初のダイアログで“コントロールセンタの削除”オプションを使うとアプリケーションを削除できます。

## Unify NX<sup>J</sup> eWave Engine の場合

NX<sup>J</sup> コントロールセンタアプリケーションは、“デフォルト”という名称のサーバです。

実運用環境で NXJ コントロールセンタを使用する場合、NXJ コントロールセンタには、Unify NXJ インタラクティブサーバライセンスが必要です。

開発環境で NXJ コントロールセンタを使用している場合は、インタラクティブサーバライセンスではなく、デザインセンタライセンスが認められていることがあります。認められているライセンスの種類は、以下のステップ 2 で確認できます。

NXJ コントロールセンタの現在のライセンスを変更するステップは、以下のとおりです。

1. Unify から新しいライセンスキーを取得します。
2. **Control Center Administration > Properties > License Key** を選択し、Control Center Properties - License Key ページを開きます。

現在のライセンスキー情報が表示されます。

**Control Center Properties - License Key**

Serial Number:

License Key:

**License Key Attributes**

Hostname: inverness

Major Version Number: 9

Installation Start Window: Jul 21, 2002

Installation End Window: Oct 31, 2002

Permanent License: False

Expiration Date: Oct 31, 2020

Maximum Number of Users: Unlimited

Trial License: True

Site License: True

Spring Design Center: Enabled

Spring Business Server: Enabled

Spring Control Center: Enabled

Spring Web Reporting: Enabled

ACCELL/SQL Application Import: Disabled

ACCELL/Web Application Import: Disabled

ACCELL/Web Development: Disabled

3. License Key フィールドにライセンスキーを入力します。

表示通りにキーを入力します。キーの大文字と小文字は区別されます。

4. **Submit** ボタンをクリックします。

ページが再表示され、ライセンスが更新され License Key Attribute 値が更新されたというメッセージが表示されます。(ACCELL/SQL および ACCELL/Web は、Unify NX<sup>J</sup> への移行をサポートする他の Unify 製品です)。



# IBM WebSphere 4.X Application Server に配備する NX<sup>J</sup> アプリケーション

C

IBM WebSphere Application Server を使用する場合、アプリケーションサーバ独自の配備ツールを使って NX<sup>J</sup> アプリケーションパッケージを配備します。NX<sup>J</sup> コントロールセンタは使用できないので、アプリケーションパッケージの配備中は、NX<sup>J</sup> コントロールセンタ固有の NX<sup>J</sup> アプリケーション機能（NX<sup>J</sup> コントロールセンタメニューなど）は無視されます。アプリケーションは、スタンドアローンの J2EE アプリケーションとして配備され、アクセスされます。

この付録では、以下の内容を説明します。

IBM WebSphere 4.X Application Server を使った配備

スタンドアローンアプリケーションへのアクセス

## WebSphere 4.X Application Server を使った配備

一般に、NX<sup>J</sup> アプリケーションパッケージを配備するタスクは、EAR ファイルとしてパッケージ化された J2EE アプリケーションの場合と同様です。ただし、NX<sup>J</sup> アプリケーションでは、以下のような点を考慮する必要があります。

- WebSphere 4.X Server に配備できる NX<sup>J</sup> アプリケーションは、いかなる場合でも 1 つだけです。複数の NX<sup>J</sup> アプリケーションが必要な実行環境では、NX<sup>J</sup> アプリケーションごとにサーバを作成し、複数サーバエディションの IBM WebSphere Advanced Server を使用する必要があります。
- IBM WebSphere Application Server の Module Visibility を Application に設定する必要があります。IBM WebSphere の管理者コンソールでアプリケーションサーバのプロパティを編集し、Module Visibility の値を Application に設定します。この設定は、NX<sup>J</sup> アプリケーションを配備するサーバ、またはサーバグループごとに行う必要があります。

- NXJ アプリケーションの “NXJ/home”EJB 環境エントリを正しく設定する必要があります。環境エントリの値は、アプリケーションパッケージが作成されたマシンの Unify NXJ リリースの場所に設定されます。この値がターゲットマシンの同じ場所でなければ、エントリを訂正する必要があります。その場合は、IBM WebSphere アプリケーションアセンブリ ツールを使って NXJ アプリケーションの .ear ファイルを開き、以下のステップを実行します。
  - a. **EJB Modules -> NxjEjb.jar -> Session Beans -> nxjFieldManager** のブラウザ ツリーで Environment Entries ノードを選択します。
  - b. 右側のパネルのリストで NXJ/home のエントリを選択します。
  - c. エントリの値の編集フィールドで、Unify NXJ がマシンにインストールされている場所を正確に反映していることを確認します。
  - d. 変更を保存し、アプリケーションアセンブリツールを閉じます。
- NXJ アプリケーションがいずれかの JDBC データソースを使用する場合は、アプリケーションを配備する前に、アプリケーションサーバ環境でデータソースを作成する必要があります。
- IBM WebSphere の管理者コンソールを使って、NXJ アプリケーションを配備します。J2EE アプリケーションのインストール方法については、IBM WebSphere のドキュメントを参照してください。
- NXJ アプリケーションの配備が完了したら、プラグイン構成を再生成します。これは、Web Server が新しく配備したアプリケーションのコンテキストパスを理解するために必要な手順です。再生成の方法は、IBM WebSphere Application Server のバージョンによって異なります。
  - IBM WebSphere Advanced Edition を実行している場合は、管理者コンソールの Node entry を右クリックして Regen Webserver Plugin を選択します。
  - IBM WebSphere Advanced Single Server Edition を実行している場合は、サーバのツリーエントリをクリックします。右側のパネルで Web Server Plug-in Configuration へのリンクをクリックし、手順に従います。
- Single Server Edition で実行している場合、アプリケーションサーバを再起動する前に構成の変更を保存することが重要です。コンソール上部の構成の保存が必要リンクをクリックし、手順に従います。
- アプリケーションサーバを再起動し、アプリケーションにアクセスします。

---

## スタンドアロンアプリケーションへのアクセス

WebSphere Single Server へのインストールが終了したら、以下の URL を使って NX<sup>J</sup> アプリケーションにアクセスします。

```
http://<host>[:<port>]/<packageName>
```

ここで

<host> は Web Server ホストの名称です。

<port> は Web Server がリスンしているポート番号です（ポートが 80 の場合は省略可）。

<packageName> はパッケージ名で拡張子はありません。アプリケーションのコンテキストルートとして使用された名称です。

例えば以下ようになります。

```
http://localhost/myPackage
```